

産直便り

組合員と生産者がともに育てあう
生協の産直

福井シード



福井シード株式会社(福井市)
代表取締役社長 井村 裕治さん(左)
常務取締役 井村 仁美さん(右)

1998年、種苗販売業として創業。オリジナル品種の野菜・花卉種子の研究開発・生産・販売をはじめ、日本全国の種苗会社と連携した野菜・花卉の種苗、用土、肥料、農業用資材などの販売を手がける。



美味しいを追求して、オリジナル品種も開発

産直 福井シードの種苗

培養技術を生かしたオリジナル品種開発 美味しいと作りやすさの兼ね合いを模索

野菜や花卉、世界のハーブなど多彩な品種の種苗から、肥料や用土、農業用資材まで幅広く提供する福井シード株式会社。既存の品種に留まらず、坂井市にある同社の研究・生産施設ベジプロセンターでは、独自に研究した新しい品種の開発や生産も手がけています。

「遺伝子組み換えは行わず、長年培った独自の培養技術を生かし、オリジナルの品種を作っています」と語る井村社長。『華クイン』をはじめとする人気のミディトマト苗を主力に、かぼちゃ、なすなど、20品目以上の種苗を全国に提供しています。



近年の気候変動を考慮し、品種開発は暑さや病気に強く、作りやすいものが求められています。「やはり美味しいと感じていただけることが最優先です」ときっぱり。「新しい品種の開発は何を理想とするかで全然違ってきて、ひとつの条件を優先すると他はある程度あきらめないといけないところが出てきます。あちらを立てるとこちらが立たない中



で微かな兼ね合いを探るなど、新しいものを作るおもしろさと大変さが共存しています」と語ります。

品種で違うトマトの味わい 未来へ美味しさの種を蒔く

県民せいきょうとは10年以上のつきあいで、2024年に実施した組合員の参加イベントでは、さまざまな品種のトマトの食べ比べを実施。「福井県が開発した『越のルビー』の苗も生産しているのですが、食べ比べてみた後、組合員さんから『品種で、こんなに味が違うとは思わなかった』と驚きの声をいただきました」と笑顔を見せました。



「当社は品種という食品の前段階のものを作っていますが、最終的にはオリジナル品種だけでなく、県の伝統野菜や在来品種などもできるだけたくさんの方に美味しく食べていただけるよう、農家さんと一緒に取り組んでいきたいです」と意気込む井村社長。将来的には「全国各地のいろいろな品種も紹介していきたい」と、未来に向けて美味しさの種を蒔いています。



余った種の保管方法

もしも種が余った場合は、「食べ物ではないので、袋に書いてある日付はあまり気にしなくて大丈夫」と井村社長。「湿度の変化がないよう、余った種をお菓子などの乾燥剤と一緒にジッパー付きビニール袋に入れて密封し、冷蔵庫など冷暗所で保存すると良いですよ」と教えてくれました。



過去の交流の様子

